

## 令和4年度 教育指導における県連盟コミッショナー方針

ボーイスカウト福島連盟  
県連盟コミッショナー  
大槻 富寛

### 三指

ボーイスカウト日本連盟創立 100 周年の年ですが、新型コロナウイルス感染症が全世界にまん延して三年目になります。改めて各地域での感染状況などを注視しつつも、可能な限り、スカウトたちが実際に集い、活動する機会を積極的に模索するよう考えましょう。スカウティングは「野外を教場とする」ことを忘れず、自然体験活動を通じて、人格を形成していく基礎となる経験を積極的に提供していきましょう。また、このような活動を進めていくうえで、スカウト、保護者の多様な価値観・考え方を尊重することも大切なことです。現状でヒトとの交流に対して、ストレスを感じるスカウトもいるかもしれません。少しずつでも、無理をせず、新しい日常の中での活動を模索してみましょう。

すぐにできないものもありますが、できることも多くあります。夏のキャンプを実施したある隊では、キャンプだけれどキャンプ（宿泊）をしない、毎日、「家から通う」キャンプをしたという話を聞きました。「今までの日常」である必要はありません。「今、できること」を、スカウトたちの自発性に委ねて行っていくことが私たちの活動だと思います。昨年からの子どもたちの環境は、のびのびと成長するには非常に厳しい状況にあり、今後の子どもたちの心身にも大きな影響をもたらすのではないかとこの研究者の声もあります。子どもたちの、その年齢ごとに必要とされる体験の機会が十分にありません。例えば、小学校入学前後で、「集団」での学び、あそび、生活といったものはどうでしょうか。今後、集団に馴染めないといった子どもが出てくるかもしれません。このような事態に、多くの保護者の方々も不安をお持ちと思われる。そして、この不安を少しでも取り除くこと、失われた機会を取り戻していくお手伝いをするところこそが、私たちのスカウト運動ができることではないでしょうか。このようなこともぜひ、お考えいただき、各地区の活動を推進していただくようお願いいたします。

弥栄

#### 1. 全団調査を活用し各団への継続的支援を実施する。

団審査（団の健康診断）を定例化し、定期的に年2回の団訪問を実施して現状課題を把握する機会を持ち、県連盟内各コミッショナーおよび各委員会の具体的な支援活動により、有意義な集会を行うことで、スカウトの中途退団を抑止し、新規入団スカウト獲得に取り組みましょう。

#### 2. 全ての隊・団指導者の質の向上を目指す。

本連盟教育規程2-14「加盟登録における指導者の資格」を確認し、引き続き良き

社会人としての意識や倫理観を高めるとともに、「セーフ・フロム・ハームガイドライン」を遵守し、スカウトに危害を加えるような行為を未然に防ぐ。

### 3. ラウンドテーブルの活性化を進める。

指導者のニーズに合った様々なテーマによるラウンドテーブルを年間計画し、隊指導者とのコミュニケーションを通じて、一人ひとりに適切な支援ができるよう、自身の資質の向上に努め、トレーナーの協力を得てラウンドテーブルを活性化させる。

### 4. ローバースカウト活動への支援をする。

県連盟にローバースカウト部門担当のコミッショナーを選任し、自県内のローバースカウト指導者と良いコミュニケーションをとり、スカウトにこの部門の特色である「心身の鍛錬による奉仕能力の向上」や「国際性の涵養」の機会を与え、ローバースカウトの「自己の確立」を支援する。さらに、スカウト運動の担い手を育成する基礎づくりとして、地域のローバースカウトへの支援だけでなく県内の大学ローバースカウト隊の発隊等の呼びかけを行いましょう。

※ 福島連盟ローバー担当コミッショナー：二宮 知明 県南地区コミッショナー

### 5. 100周年に向けた変革に対応する ※ 各コミッショナー自らの改革

青少年プログラムの見直しや、SDGsへの取り組み、指導者訓練の改定、コミッショナーの任務の見直し等といった、創立100周年に向けた様々な変革を前向きにとらえながら、現代の青少年の特性や青少年を取り巻く社会環境についても常に高い関心を持ち、各団の運営やスカウトの教育に対して適切に指導・助言をしましょう。